

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

耳よいな話①・・・地質探偵こと「ハラヤマ」先生の話が聞けます

地質探偵「ハラヤマ」といえば、2003年に発刊された「超火山『槍穂高』」を思い出す人は多いのではないかと思う（かわらばんでも、66号ならびに264号で触れた）が、10月2日に行なわれる松筑支部の教育研究集会の理科の研究会の中で、その原山智先生の講演会が行なわれる。原山先生は現在、信大の地質科学科の教授で、我々にとって最も身近な登山のフィールドである北アルプスを徹底踏査されており、その生成過程研究の第一人者である。講演会の詳細は以下の予定で開催される。

期日：10月2日（土）

会場：塩尻志学館高校 生物室

時間：9時半から11時

講師：原山智さん（信州大学 地質科学科教授）

ちなみにこの「教育研究集会」は、県内高校教職員で構成される「長野県教育文化会議」が主催している開かれた研究組織である。だから、理科の先生はもちろん、それ以外の教科の先生でも、はたまた教員でなくても、どなたでも参加できる。ということで、この研究会の責任者である志学館高校の横内先生から、「せっかくの機会なので『山岳関係者』にも広く呼びかけてください」と連絡があったので、ここで紹介した次第である。

PRついでに、さらに耳よいな情報（横内さん曰く「とにかく今年は昼の時間が大いに目玉で一般にも公開しますのでお暇な方はどんどん来ていただきたいと思います。」）があるので、この研究会についてももう少し紹介しておこう。

当日は終日、理科ばかりでなく各教科、教育課題別の研究会が開かれるのだが、それ以外にも11：20からは、映画上映（坂田雅子監督「花はどこへいった」）、12：30から13：30までのお昼の時間には、豚汁のサービスと志学館産ナイヤガラを試食もある。それから「志学館マーケット」ということで、辰野高校・長野商業高校・塩尻志学館高校の商業科目選択生徒を中心に各校地元企業とコラボした商品を販売すること。具体的には

志学館⇒地元の企業と提携して生徒発案で作ったワインカステラ、ワインゼリー、ワインパン。

辰野⇒同じく辰野の企業と提携して今年限定の「おんばしらロール」。

長商⇒八幡屋磯五郎と提携、長商オリジナルブレンド唐辛子、缶のデザインも長商バージョンで、11月から北信で販売予定のものを今回志学館マーケットで先行販売。

加えて長野県野菜花卉試験場さんをお願いして、レタス100個 リンドウの花100本を格安で販売するブースや、松本市で自家製コーヒー焙煎の店としておなじみの「豆工房」の豆を、源池の湧き水で入れたコーヒーが飲めるNPO法人「てくてく」の移動式カフェも出るそうだ。原山先生のお話を聞きに来たついでにお土産もゲット、ちょっと足を運んでみませんか。

耳よいな話②・・・雷鳥研究第一人者「中村さん」とフィールドワーク

長野県山岳協会自然保護委員会では、絶滅が危惧されている雷鳥の生態を乗鞍岳山頂付近の生息地域で観察するとともに、専門家から雷鳥の生態などの話を聞く機会を設定（無雪期と積雪期に各一回）した。講師は、日本鳥学会会長で、「ライチョウ会議」を主宰している信州大学教育学部教授の中村浩志さん。中村さんの著書「雷鳥が語りかけるもの」も以前かわらばんで取り上げた（209号）が、僕にとっては1993年のアリュシャン列島登山自然調査隊遠征のとき同行した山仲間でもある。中村さんは、その「雷鳥が語りかけるもの」の中で、日本の雷鳥が人を恐れないのに対して、アリュシャンのそれは極めて警戒心が強かったことに興味を覚え、結果として雷鳥研究に本格的に取り組み始めたきっかけはこの遠征だったと記されている。アリュシャンで雷鳥の写真を撮るのに苦労していた先生の姿は今でもありありと浮かんでくる。中村さんは今年冬期の雷鳥がどこで越冬するのかを調べた結果をまとめ、それは新聞紙上にも掲載されたので記憶にある方もあるかもしれない。10月9日、10日に行なう無雪期の観察会の日程は下記の通りだが、積雪期3月12日、13日にも行なう予定である。こちらも含め、まだあまり知られていない雷鳥の生態について一緒に学習しませんか？

ライチョウの生態観察（無雪期）

☆日程 10月9日（土）・10日（日）

1日目	9:30	集合（乗鞍観光センター駐車場）
	10:00	シャトルバスで豊平移動（10:50着）
	11:00	ライチョウの生息地観察 豊平～肩の小屋周辺
	15:00	肩の小屋着・宿泊
	16:00	講義 「仮題 ライチョウの生態について」
	18:00	夕食・懇親会
2日目	6:00	起床、朝食
	8:00	ライチョウの生息地観察
	14:05	シャトルバスで乗鞍観光センター移動
	15:00	解散

☆対象 長野県山岳協会会員（山岳保険加入者）および一般希望者（保険加入のこと）

☆費用 参加費無料（ただし資料代として1,000円程度）

宿泊費用・バス代などは参加者の個人負担

（宿泊：1泊2食で8,800円、シャトルバス：往復2,400円）

☆参加申込み 長山協事務局（小林事務局長）または自然保護委員会（杉田委員長）までとなっていますが、大西に連絡下されば取り次ぎます。

編集子のひとごと

様々なイベントが目白押しの秋である。暑さ寒さも彼岸までのたとえ通り、猛暑もようやく終焉を迎えたようだ。9月11、12日に須坂青年の家の主催事業のお手伝いを頼まれて、2日間四阿山、根子岳に登ったが、マツムシソウ、アキノキリンソウ、ウマバチソウなど暑くてもすでに山には秋の装いが感じられた。その秋がようやく里まで下りてきた。そして、山は里に先駆けてそろそろ山粧う錦秋の季節の到来だ。（大西 記）